

中山間地域に居住する高齡者の主観的幸福感

—WHO/QOL-26 による調査から—

○ 佐賀大学 氏名 橋本 芳 (6334)

キーワード：中山間地域、WHO-QOL/26、高齡者

1. 研究目的

わが国は、世界でも類をみない早さで高齡化が進行している。高齡化の進行は一般に都市部よりも地方で早く、農村や山間部では全国に先駆け高齡化に付随した問題に直面している。本研究の目的は、筆者が 2009 年から継続して聞き取りやアンケート調査を行なっている A 県 B 地区において、中山間地域に居住している高齡者の QOL を捉えることにある。

2. 研究の視点および方法

(1) 研究の視点

①調査主題：WHO/QOL-26、主観的幸福感

②調査期間：平成 26 年 8 月

③調査対象：A 県 B 地区の高齡者（配布数 21 票、回収数 16 票、回収率 76.2%）

④調査方法：B 地区の区長の協力を得て、区長から各高齡者への調査票配布・回収を行った。

⑤調査内容：1)回答者属性：年齢、性別

2)WHO/QOL-26：1)「全体的な QOL」：2 項目、2)「身体的領域」：7 項目、3)「心理的領域」：6 項目、4)「社会的関係」：3 項目、5)「環境領域」：8 項目の全 5 領域 26 項目

⑥分析方法：回収した調査票 16 票をもとに、SPSS ver. 20.0 を用いて分析を行った。回答の各項目は単純集計で結果を捉え、WHO/QOL-26 の項目は WHO の算出基準に準じ、「非常に（非常によい、非常に満足、常に）」を 5 点、「かなり（良い、満足、かなり頻繁に）」を 4 点、「多少は（ふつう、どちらでもない）」を 3 点、「少しだけ（悪い、少し不満）」を 2 点、「まったくない（まったく悪い、まったく不満）」を 1 点とした。各項目は単純集計、平均値及び標準偏差を算出した。統計的有意水準は 5%とした。

3. 倫理的配慮

B 地区の区長に事前に本研究の趣旨や調査内容を伝え、了解を得た上で調査を実施した。回答は無記名とし匿名性を維持した。

4. 研究結果

1. 基本的属性：性別は「男性」68.8%、「女性」31.3%だった。年齢は平均72.1歳（SD±9.07）だった。

2. WHO/QOL-26：全26項目の平均（標準偏差）は3.25点（SD±0.26）だった。回答者のうち、最も平均点が高かったのは3.81点で、最も平均点が低かったのは2.81点だった。

WHO/QOL-26について、5つの領域別に平均（標準偏差）をみると、高い順に1)「社会的関係」が3.40点（SD±0.51）、2)「身体的領域」は3.30点（SD±0.52）、3)「心理的領域」は3.26点（SD±0.63）、4)「環境領域」が3.17点（SD±0.43）、5)「全体的なQOL」は3.09点（SD±0.58）だった。

26項目別に平均（標準偏差）をみると、高い順からそれぞれ「Q15.移動能力」3.81点（SD±0.83）、「Q22.社会的支え」3.69点（SD±0.70）、「Q20.人間関係」3.63点（SD±0.72）、「Q16.睡眠と休養」3.56点（SD±0.73）、「Q23.居住環境」3.56点（SD±0.63）、「Q26.否定的感情」3.56点（SD±0.96）、「Q7.思考・学習・記憶・集中力」3.44点（SD±1.03）、「Q9.生活圏の環境」3.38点（SD±0.96）、「Q5.肯定的感情」3.25点（SD±0.86）、「Q17.日常生活動作」3.25点（SD±0.78）、「Q8.自由・安全と治安」3.25点（SD±0.78）、「Q6.精神性・宗教・信念」3.19点（SD±0.75）、「Q19.自己評価」3.19点（SD±0.83）、「Q24.健康と社会的ケア：利用のしやすさと質」3.19点（SD±0.66）、「Q1.全体的なQOL」3.13点（SD±0.50）、「Q3.痛みと不快」3.13点（SD±0.81）、「Q4.医薬品と医療への依存」3.13点（SD±0.81）、「Q10.活力と就労」3.13点（SD±0.81）、「Q18.仕事の能力」3.13点（SD±0.89）、「Q25.交通手段」3.13点（SD±0.72）、「Q2.全体的な健康状態」3.06点（SD±0.85）、「Q13.新しい情報・技術の獲得の機会」3.06点（SD±0.77）、「Q14.余暇活動への参加と機会」3.00点（SD±0.97）、「Q11.ボディ・イメージ」2.94点（SD±0.77）、「Q21.性的活動」2.88点（SD±0.62）、「Q12.金銭関係」2.81点（SD±0.66）だった。

5. 考察

今回、対象とした調査地で、筆者は2009年から現在まで継続して聞き取り調査やアンケート調査を実施している。B地区では、高齢化に付随して直面している問題に対し、①近隣に住む家族、②集落の相互扶助、③社会福祉資源を活用し対処していた（橋本，2009）。5領域のうち社会的関係の得点が最も高かったのは、家族と近隣との関係が良好であることが考えられる。

一方で、項目別にみたところ、金銭関係の得点が最も低かった。本研究の対象者は、65歳以上であることから、ほとんどの回答者は年金が収入の中心である。将来的な健康状態、介護など、生活面での不安が得点に結びついたと考えられる。